

ひびき通信

平成 25 年
7 月 版

在宅サポートセンター生田の七月以降のセミナーについてご案内いたします。七月二十八日には東京都立府中療育センターで言語聴覚士を務める山本弘子さん

7 月以降の セミナー 案内

が、摂食と嚥下をテーマにした口から食べるためのセミナーを開催いたします。八月はセミナーはお休みとなります。九月二十九日には入浴セミナー、十月二十七日には、下山名月さんの介護技術基礎講座を開催いたします。申し込みは FAX 〇四四（九五五）一七二二まで。

2013 介護職の元気が出るセミナー

新百合ヶ丘

「健康」「生きる」とはを再認識

在宅サポートセンター生田主催、生活とリハビリ研究所後援による「2013 介護職の元気が出るセミナー」がこのほど、新百合ヶ丘にある川崎市アートセンター・アルテリオ小劇場で開催されました。今回のセミナーは、介護現場と大きく関わりのある「看取りケア」がテーマ。会場には、介護職をはじめ、一般の市民の方々など九十名の方が参加しました。



平田晶子主任

グループホームでの看取りの実践例として、在宅サポートセンター生田副センター長で介護主任でもある平田晶子が、Sさん、Oさん二人の看取りケアの実績について、スライドを通して報告しました。入所から亡くなるまでのケアのあり方を、時間を追いながら細かく解説。また、現在も「寄り添えたのか」という思いがあることなど、スタッフとして看取りに関わった心情を報告しました。

自宅で「死ぬる」哲学

矢島嶺医師が「在宅死」への思いを語る



矢島嶺医師

「死ぬる」への思いを語る。また、国をあげて「在宅死」への流れとなっているが、サービス面や介護給付面などまだまだ不十分であることなど、社会制度面から看取りケアの現状を指摘されました。

時代を先取り！

グループホームで看取りの意味
当センターの平田晶子介護主任が実践報告

笑いあり、涙ありの トークセッション

セミナーの最後は矢嶋さん、鳥海さん、平田主任に加え、グループホーム響の看取りを支えた岸忠宏医師（日本ケア創造株式会社代表）が参加したトークセッションを行いました。矢嶋さんの「在宅死」への思いを語り、鳥海さんの「看取り」への思いの変化など、悲喜こもももの看取りケアを紹介していただきました。



鳥海房枝さん

グループホームで看取りの意味。当センターの平田晶子介護主任が実践報告。矢嶋さんの「在宅死」への思いを語り、鳥海さんの「看取り」への思いの変化など、悲喜こもももの看取りケアを紹介していただきました。

「看取り」の日から見えてきた介護の本質

介護職や看護師、地域の方々 90 名が参加

長野県上田市武石村で在宅医療に携わる矢嶋嶺先生。矢嶋さんは、グルコサミンや黒酢などの食品を摂取する最近の健康ブームが、実はあまり意味のないことを、生存率などのデータを通して指摘。それよりも、好きなものを「うまく」と言いつ

特別養護老人ホームの副施設長として、また保健師として終末期ケアを主導されてきた鳥海さんは、「施設の中で、死を隠さないこと」

「死」を隠さないことが 看取り実践への第一歩

鳥海房枝さんが大規模施設での実践例

「看取り」を実践していく上で基本となることを話されました。その上で、具体的な事例を通して、入所者はもちろん



岸忠宏社長